

寒さに強い植物と氷期の生き残り

釧路で見られる植物種の中には、最終氷期の寒冷期にユーラシア大陸から北海道に広がったものがあります。これらの種の多くは、通常は山岳地域で見られるものですが、釧路湿原では生き残っています。釧路湿原の涼しい気候と、夏には頻繁に霧に覆われることがその理由です。

湿原の花々

夏の間、釧路湿原には、クシロハナシヅブ（学名：Polemoniaceae）の可憐な紫の花があちこちに咲きます。クシロハナシヅブは、フロックスの仲間です。クシロハナシヅブは、北海道の北の樺太島で生育する亜種の変種です。北海道には氷期の間に広がった可能性が高いとされています。

ハナタケツネバナ（学名：Cardamine pratensis）は、北海道東部の湿原に繁茂しています。この植物は、ユーラシア大陸と北米の一部でも見られます。これから示唆されるのは、ハナタケツネバナも最終氷期の間に北海道にやって来たということです。

神秘的なマリモ

マリモは、淡水藻の一種（学名：Aegagropila linnaei）が稀少な球状に成長したものです。これらの糸状の藻は、水の動きによって球状に成長することがあり、直径 30cm の大きさにまで達することもあります。糸状の藻は釧路湿原の周辺部にあるシラルトロ湖や塘路湖に生息していますが、球状のマリモは釧路北部の阿寒湖のみで見られます。